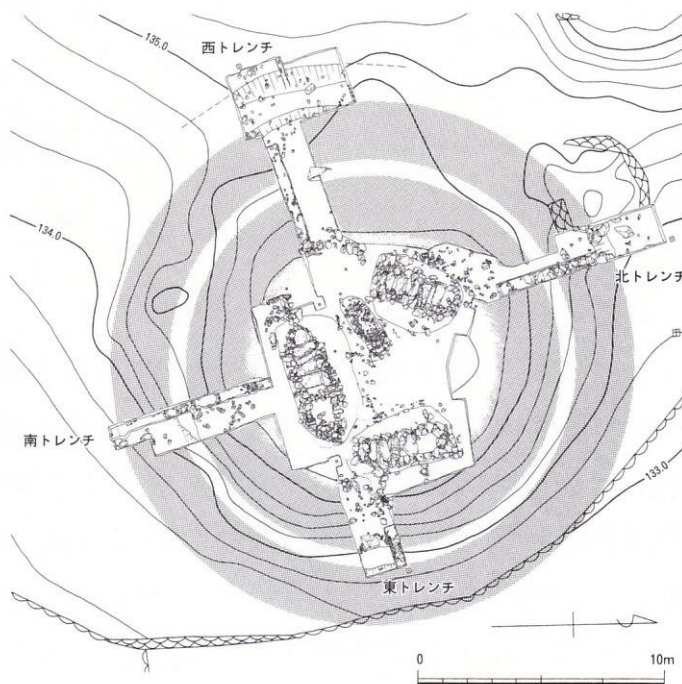


36号墳

36号墳は、古墳群の実態を知るために、平成10年度に発掘調査を行ったものです。

調査の結果、この古墳は古墳群の中で最も古い、5世紀後半に築造されたものであることがわかりました。

墳丘は径21m、2段築成の円墳で、葺石が施されています。また、山側には幅6～8mの溝をめぐらせていて、中からは須恵器の甕や土師器の高杯などが出土しました。



埋葬施設は竪穴式石槨が3基と木棺墓（石槨を設けずに、穴を掘って棺を埋めたもの）1基が確認され、一つの古墳に4基もの埋葬施設



1号竪穴式石槨

があるという、きわめて特異な埋葬形態を取っていることが明らかとなりました。1号竪穴式石槨と木棺墓については一部を調査しましたが、他の2基の石槨は調査せず現状保存としました。

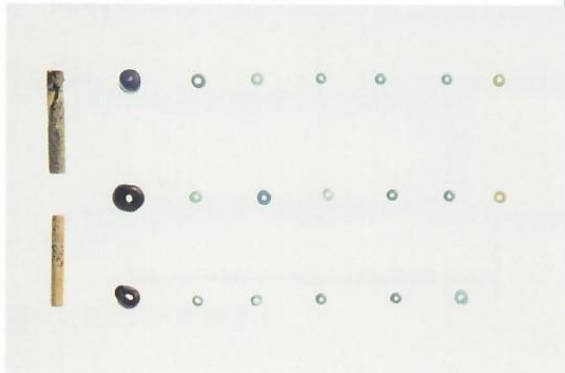


各埋葬施設の配置

1号^{たてあな}竪穴式石槨^{せきかく}では丸太を2つに割^わってくりぬいた棺^{ひつぎ}（割竹形木棺^{わりだけがたもっかん}）の痕跡^{こんせき}が確認^{かくにん}され、鹿^つの角^{かど}で飾^{てつけん}った鉄剣^{てつとう}と鉄刀子^す、他^{てつぞく}に鉄鏃^{てつぞく}が出土^{でつち}しました。また、石槨^{せきかく}周辺^{すえき}からは須恵器^{すえき}や土師器^{はじき}の破片^{はへん}が見つ^みつ^つか^かつ^つて^てい^いま^ます。木棺墓^{もっかんぼ}は長さ2.75m、幅1.03mの^{たてあな}竪穴^{たてあな}の中に長さ最大1.78m、幅0.4mの割竹形木棺^{わりだけがたもっかん}を納^{おさ}めており、ガラス玉^く、管玉^{くだ}など玉類^{たま}が出土^{でつち}しました。玉類^{たま}の出土位置^{すいてい}から推定^いされる遺体^{いたい}の身長^{身長}が60cm～120cmであることから、この木棺墓^{もっかんぼ}は小児用^{せうじよう}であった可能性^たが高いといえ^いま^ます。



1号竪穴式石槨及び周辺出土遺物



木棺墓から出土した玉類

各^{まいそう}埋葬^し施設^{せつ}は、時間^{時間}を追^おって順^し番^{ばん}につくられてい^いった^たのではな^なく、計^{けい}画的^{てき}に、ほ^ほぼ同^{どう}時^じにつくら^られたと推^す察^{さつ}され、各^{まいそう}施設^{せつ}に埋^{まい}葬^{そう}された人^{ひと}たち^{たち}が非^ひ常^{じょう}に近^{ちか}しい関^{かん}係^{けい}であ^あった^たことが想^{さう}像^{ざう}でき^きま^ます。

36号墳^{がんじょう}は、願成寺^{げんじょう}西墳^{にしつか}之^の越^{こし}古墳^{こふん}群^{ぐん}の始^はまり^{まり}や、当^{たう}時^じの古墳^{こふん}にど^どのよ^ような関^{かん}係^{けい}の^{まいそう}人^{ひと}が埋^{まい}葬^{そう}されて^ていた^たのか、な^などを考^{こう}え^える^るう^うえ^えで非^ひ常^{じょう}に重^{じゅう}要^{よう}な古墳^{こふん}とい^いえ^える^るでし^しょう^う。

池田町教育委員会「岐阜県史跡願成寺西墳之越古墳群36号墳発掘調査・74～88号墳周辺確認調査報告書」2001年